

2010年4月12日作成

2009年度活動概要

[開講科目]

「特殊講義 A」（後期2単位講義）として ICT を活用した英語学習の講義を実施。12名登録。

[授業での活用]

「英語演習 I・II」（情報科学科）、「情報科学英語 IIIA/B」で COOLL を授業に利用。

[ワークショップ]

学生向け、教員向けに COOLL の利用説明を計 5 回実施し、別途教員向けに個別対応のワークショップも行う。

- ・第1回（学生、教員向け4月29日）、第2回（学生、教員向け6月3日）、第3回（学生向け7月1日）、第4回（学生向け7月2日）、第5回（教員向け7月1日）
- ・教員向け個別対応ワークショップ（7月13、14、15、23、24、28、29、30、31日）

[モニタリング]

COOLL の内容、操作性をモニタリングするために学生アルバイトによるモニタリングを実施（約 40 名によるモニタリング）。→ 素材、教材の好み、感想、操作性の問題等指摘され効果を得る。

[実験]

COOLL での学習効果を図るための実験を実施した。（7回実施、参加者総数 47 名）研究成果は 2010 年度に学会発表の予定。

[COOLL ホームページ開設]

2010年2月末に本 GP のホームページ（www.coollweb.tsuda.ac.jp）を開設。

[学会発表]

2010年3月に言語処理学会で COOLL 開発に関する研究発表。

[フォーラム]

2010年3月13日（土）、第2回フォーラム開催（「本物の素材を用いた ICT 利用の英語教育 Using Authentic Materials in Language Teaching/Learning」）。総勢約 60 名の参加。別途報告書参照。

[COOLL 開発について]

- ・ UI の改良（画面デザイン、英語版の作成）、集計ツール追加設定
- ・ 素材の追加収集・登録（「英語演習 I（情報科学科）」、モニタリング学生からの推薦、「特殊講義 A」受講者の推薦、全学的な収集依頼）
- ・ ユーザマニュアル、素材登録マニュアルの作成（新年度 5 月に新バージョン完成予定）。
- ・ COOLL のロゴ作成（公募により COOLL のロゴを作成し、COOLL 画面に載せる）。

以上

「特殊講義 A～英語教育に ICT 活かす～」fall 2009

火Ⅱ時限 S305 教室 (時間割コード 220YB)

回	日付	内容
1	9月29日	・コース概要、ユーザ参加型英語学習サイトの紹介及び体験
2	10月6日	・ICTを利用した英語学習教材作成(1) COOLLを利用した英語学習について
3	10月13日	・iPod とデジタルメディア入門
4	10月20日	・英語教育におけるICTの位置づけ 参照テキスト”Teaching English Language Learners through Technology” Introduction、Ch. 1.1 & 1.2、Ch. 2.1
5	10月27日	・英語学習にかかわるICTの活用とその紹介 参照テキスト 同上 Ch. 2-2～2-5 ・レッスンプランの書き方
6	11月10日	・教育用コンテンツ管理システム Moodle 入門 ・ICTを利用した英語学習教材作成(1) Introduction
7	11月17日	・ICTを利用した英語学習教材作成(2) iPod で使用できる教材の紹介
8	11月24日	・ICTを利用した英語学習教材作成(3) COOLL 以外の教材の作成方法
9	12月1日	・ICTを利用した英語学習教材作成(4) プレゼンテーションに向けて
10	12月8日	・ICTを利用した英語学習教材作成(5) プレゼンテーションに向けて
11	12月15日	・開発した教材のプレゼンテーション及びディスカッション
12	12月22日	・知的財産の教育的利用について ・英語教育におけるICTの今後について
13	1月12日	・評価、まとめ

<評価方法>

- ・出席・授業への参加度 (Moodle への参加も含む)
- ・レッスンプラン ・開発した教材 ・プレゼンテーション
- ・レポート(レッスンプランの解説、教材説明、教材開発についての感想や意見)、参考資料)

<注>

- *この授業はテーマに適した専門分野の講師が随時授業を担当します(オムニバス形式)。
- *参照テキスト”Teaching English Language Learners through Technology”は図書館で閲覧・コピーすることが可能です。購入する必要はありません。
- *この授業では Moodle を使用して円滑なコミュニケーションを図る予定です。

教育GP「専門課程における英語カリキュラム協調開発」プロジェクト 2008年度実績報告書

【実績】

- ① 全学的な教育組織 TECC に本取組に関する組織として英語カリキュラム協調開発委員会、ICT アクショングループ、教材開発を担当する ICT 教材開発チームを設置し、本取組への組織を整備した。
- ② 大規模な協調作業のためのシステム開発の外部委託業者を選定し、システム開発を行い、英語教材協調開発システム“COOLL”を開発した。開発に際しては、①で組織された英語カリキュラム協調開発委員会、ICT アクショングループ、ICT 教材開発チームからヒアリングを行い、システムへ反映した。
- ③ 平成 21 年度専門課程英語担当教員による推薦をもとに、ICT 教材開発チームが素材の教材化を実施した。第一期として、英語スクリプトを付加した教材と英語スクリプトとその日本語訳を付加した教材を計 30 教材作成した。
- ④ 効果測定のため、情報科学科生を対象に英語試験（TOEIC）を実施した。
- ⑤ 平成 21 年度開講科目とその担当者を決定し、本取組を授業に実施する体制を整えた。
- ⑥ フォーラムを 3 月 24 日に開催、本年度の取組内容に関して報告し、開発した英語教材協調開発システムを紹介した。またオープンコースウェアに関して、マサチューセッツ工科大学（MIT）の宮川繁教授がその現状と方向性を講演された。
- ⑦ 評価委員会を開催し、本年度の取組に関する評価や課題について検討を行った。

【実績に係る具体的な成果】

- ① 全学的な教育組織 TECC に本取組に関する組織として英語カリキュラム協調開発委員会、ICT アクショングループ、教材開発を担当する ICT 教材開発チームを設置し、本取組への学内の体制を整え、対象となる専門課程の教員の意識の改善を図ることができた。
- ② 大規模な協調作業のためのシステム開発の外部委託業者を選定し、英語教材協調開発システム COOLL を構築した。開発に際しては、①で組織された英語カリキュラム協調開発委員会、ICT アクショングループ、ICT 教材開発チームからヒアリングを行い、システムへ反映した。本システムの開発により、英語教材の開発を担当する英語教員のみならず、専門課程の教員や学生が教材の協調開発に参加することが可能になった。
- ③ 平成 21 年度専門課程英語担当教員及び ICT アクショングループによる推薦をもとに、ICT 教材開発チームが素材の教材化を実施し、専門課程に対応したレベルでの教材（英語スクリプトを付加した教材と英語スクリプトとその日本語訳を付加した教材）を計 30 教材作成し、英語カリキュラムの充実化を図った。

- ④ 効果測定のため、情報科学科生を対象に英語試験（TOEIC）を実施し、本取組のデータの集積を行った。
- ⑤ 平成 21 年度開講科目とその担当者を決定し、本取組を授業に実施する体制を整えることにより、英語カリキュラムの充実化及び英語教材協調開発システムの学生による利用を促進した。
- ⑥ フォーラムを開催することにより、本年度の取組内容に関して報告し、開発した英語教材協調開発システムの公表及び情報発信を行うことができた。またオープンコースウェア先駆者である MIT の宮川繁教授を招へいし講演していただくことにより、オープンコースウェアの現状と方向性に関して意見を交換し、本取組の手法等に関して助言が得られた。
- ⑦ 学外者によって構成される評価委員会を開催し、本年度の取組に関する評価や今後の課題について検討を行うことができた。

2010年4月12日作成

2010年度実施計画概要

第3年度は、それまでに得られたフィードバックを踏まえた、新しい教材の開発を行い、さまざまな教材を有効に組み合わせた教育課程の確立を目指す。主な活動は次の通り。

- ① 4月-翌年1月 開発した教材による授業実施（継続）。
- ② 4月-翌年1月 ICTを用いた英語学習研究に関する授業の実施。
- ③ 4月-翌年3月 COOLLの運用、教材の使用記録、評価データの収集、および、利用記録や操作記録等データの解析を実施する。データ検証や学習効果を図る研究プロジェクトを実施し、学会・研究会等で発表。
- ④ 4月-10月 素材の収集（継続）および第3期の教材の作成。
- ⑤ 4月-翌年3月 COOLLシステムの改修・機能強化開発。（9月学外公開予定）。
- ⑥ 5月-10月 一般教員および学生対象教材利用講習会の実施（継続）。
- ⑦ 7月・翌年1月 授業評価アンケートの実施。
- ⑧ 9月 海外招へい講師による講演会・研究会の実施。
- ⑨ 翌年1月-3月 本取組に関する報告書作成。
- ⑩ 翌年3月 本取組のまとめとしての第3回フォーラムおよび評価委員会の開催。

2009年度 評価票

(必要に応じてコメントの分量は増やして下さって構いません。)

1. 現行の COOLL(2.0 版)について、英語学習のための教材提供の視点からどう思われますか。

2. 現行の COOLL(2.0 版)について、システム及び、使い勝手やユーザーインターフェイスなどについて、どう思われますか。

3. プロジェクト全体の取り組みについて、どう思われますか。

4. 今後、どのような展開を期待されますか。